

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

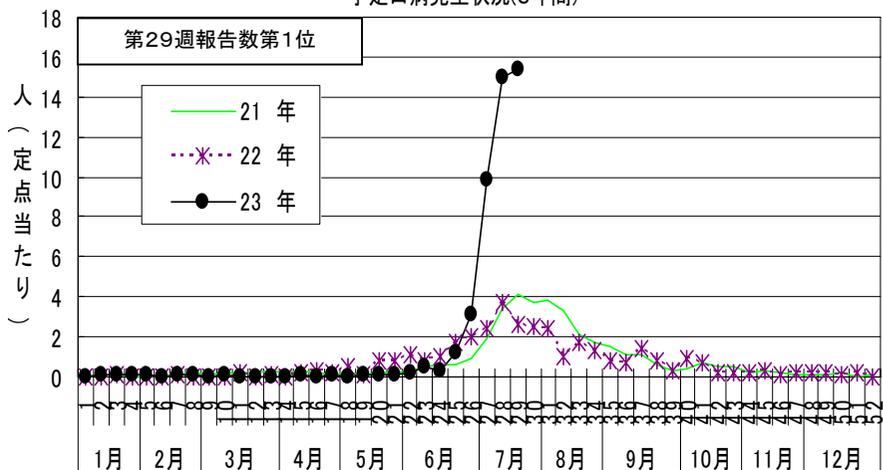
平成23年7月18日(月)～7月24日(日)〔平成23年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎でした。

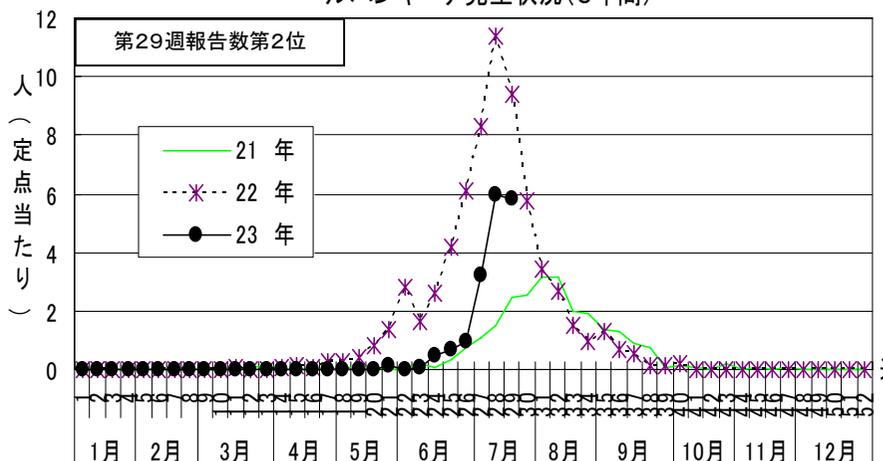
手足口病は定点当たり15.34人と前週(14.97)より患者報告数はさらに増加し、過去最多の患者報告数を3週連続で更新し続けています。例年第28週または第29週に流行のピークを迎えることが多いため、今後患者数は減少傾向になることが推測されますが、極めて高いレベルで推移していますので、引き続き予防対策等の徹底が重要です。

ヘルパンギーナは定点当たり5.84人と前週(6.00)より患者報告数は減少しました。手足口病とは異なり、例年を下回るレベルでの推移となっています。

手足口病発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



手足口病が過去最多の報告数を更新しました！！

手足口病は、その名のとおり、手、足及び口などに現れる水疱性の発疹を主症状とする急性ウイルス性疾患で、例年乳幼児を中心に夏季に流行します。高熱が続くことはあまりなく、基本的には数日間のうちに治癒する予後良好の疾患です。ただし、まれに髄膜炎などを発症し、重症化することがありますので油断は禁物です。



川崎市においては、右下のグラフのとおり、6月下旬から患者報告数が急激に増加し、例年を大きく上回る流行が確認されています。また、全国的にも例年を上回る報告数を記録していますので、今後しばらく手足口病の発生動向に注目する必要があります。



気をつけたいこと！！

- ①手洗いの徹底及び便などの排泄物の適切な処理が予防対策の基本です。
- ②口の中に発疹ができると、痛みにより飲食できなくなることがあるので、脱水症に注意しましょう。
- ③症状が回復した後も、1ヶ月程度ウイルスが便中に排泄されることがあるので注意しましょう。

